

『ママじゃなきゃダメなのと言われる時間』

前と後ろに小さなお子さんを乗せて自転車で走るママを見ると、毎回「頑張っ！」とエールをつぶやいています。

私の子ども乗せ自転車は5台目になりました。今は7才がたまに後ろに乗るだけです。かつて、前と後ろとおんぶの4人乗りをしていたら、女子高生に「わー、サーカスみたい！」と言われました。必死に走っていた時期です。

その頃は、誰も留守番も出来ず、どこに行くのもゾロゾロと一同で歩いていました。「ママが居ないとダメなの」

マンションの下にゴミ捨てに行くにも、お兄ちゃんの幼稚園バスのお迎えも留守番出来ず泣く子たち。

トイレのドアも開けて入っていた時期。自由時間がまったくなく、束縛というより、拘束状態。

そのうち、1番上のお兄ちゃんが留守番を出来るようになると、ちょっと楽になります。「ママ、あのスーパーなら行って来ていいよ」束の間のひとりの時間が出来ました。

6人とも振り返ると、4才(幼稚園年中さん)になると、ちょっと留守番を出来るようになり、7才(2年生)になるとほぼ「ママ行かないで」とは言わなくなります。

そして、「ママ何時に帰って来るの？」という言葉は、「早く帰って来て」ではなく、ママが居ない間に何しようかな？という意味合いに変わります。

我が家の末っ子も2年生になり、今は私より、お姉ちゃんたちと出かける方がずっと嬉しそうです。

幼稚園の門でこの世の終わりのように泣いて別れた日々は夢だったのでしょか。自由時間を取り戻しましたが、あの日々は二度と来ないのだ、と寂しくもあります。

道で「ママー、ママー」と追いかけている子を見ると羨ましくもあります。「そんなに後を追ってくれる人って、一生でなかなか居ないし。期間限定ですよー。」って。

誰も後ろに乗せていない自転車に乗りながらつぶやいているのです。

いのはなはるこ

